

| | | | | | | | |
|------|-------|------|----|------|---|------|------|
| 科目名 | 民法Ⅱ | | | | | 単位 | 2.0 |
| 担当教員 | 早川 秋子 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 開講期間 | 後期 | 配当年次 | 2 | 授業番号 | 5510 |

●授業のテーマ
家族と福祉

●到達目標

単位修得のための丸暗記でなく、法律を活用していく実力の養成を目的とする。
講義の中で、基本的な判例をいくつか整理し、今後の問題点を考えていく作業を進める。
そうした作業により、六法を片手に、現実の問題を解決法的解決に導くこともできるようになるだろう。
同時に法律の面白さも実感してほしい。

●学習内容(授業概要)

日本国憲法の下で、男女の本質的平等が明記され、夫婦のありかた、家族のありかたが変わった。
家父長主義は廃止された。家督相続制度は廃され、祭祀継承は財産相続に組み込まれることになった。
新しい制度の誕生であった。民法の第四編・第五編に明記された。

それが、現在改正を余儀なくされる事態が起こっている。
医療の発展や家族に対する考え方の変化によって、事実婚やそれに伴う非嫡出子の増加、性同一性障害への対応や代理母の必要性まで出てきた。児童虐待や介護放棄といった社会問題も関わってくる。
どんな生き方をしたいか、家族とは何か、諸問題を整理しながら、共に考えていきたい。

●学習内容(授業計画)

《後期》

1. 婚姻の成立 法律婚と事実婚
2. 離婚の種類 効果
3. 事例研究 有責主義から破綻主義へ
4. 親権 嫡出の推定
5. 成年後見制度
6. 事例研究 代理母出産の母は誰？ 性同一障害で性別変更して父に？
7. 養子制度
8. 児童虐待防止法 意義と内容の整理
9. 扶養と介護保険法など福祉法制とのかかわり 法定相続と遺言
10. 法定相続と遺言
11. 事例研究 1 相続に関する判例整理
12. 事例研究 2 寄与分と特別受益
13. 特別縁故者への相続財産分与制度
14. 遺留分
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

各回の講義ノートを事前・事後に見直して、その都度疑問を残さないようにして進めていくことで、法的感覚が段階的に養われます。

●成績評価方法・基準

筆記試験 80% 講義での発言（参画度）20%
（筆記試験には、自筆ノートの持ち込みを許可する）

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：ポケット六法（27年度版）、出版社：有斐閣、備考：手元があれば、旧版でも可

●参考文献／その他

講義中に適宜紹介する。

事前に民法全体の内容を確認したい人は、

田中敦子・大野正博編『法学入門』成文堂

谷口貴都・松原哲編『基礎からわかる法学』成文堂を推薦する。

●履修上の注意

各自が、積極的に民法を得意科目にしよう、という意思をもって参加してほしい。